

# 大学キリスト教週間への招き

- あなたの若き日に -

嶋 村 誠

若いということはすばらしいことです。それゆえ実年齢を重ねた後も、誰もが若さだけは失いたくないと思います。人の若さとは何でしょうか。その要件には「ユーモアがあること」という一項が含まれているのかなと思います。ハワイの牧師さんから伺った話ですが、ある日系の方が99歳の誕生日を迎えられるというので白寿のお祝いにケーキを持って訪問されたところ、入れ歯をはずして召し上がられました。そこで牧師が、「ケーキを食べるときにははずすのだったら、そんな入れ歯はいらないでしょう」と尋ねますと、すかさずその方曰く、「いや、食事のときにはいらんのじゃが、歯を磨くときに入れ歯がいるんじゃ。」私も将来こんなユーモアのある、若々しい老人になりたいものだと思うのです。

また、若さとは「新しいことを受け止められる」ことでもあるように思います。キリスト教は自分にとって新しいものだという人も多いことでしょう。聖書に、「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ」（コヘレトの言葉12章1節）という一節があります。文字通り若い方々も、若さを失ってはおられないあなたも、大学キリスト教週間を機に各種プログラムを通してイエス様や神様に触れてみませんか。

イエス様とはどんなお方でしょうか。ラジオでこんな話が放送されていたそうです。ある酔っ払いが指定席券を持たないで新幹線の指定席にどっかと座ったというのです。そこで、「その席は困ります」と乗務員。すると、「金を払えばええのやる?」「では、どちらまで?」と乗務員が聞くとその酔っ払い曰く、「エチオピアまで。」あなただったらどう答えますか。その乗務員はこう答えたそうです。「そこには停まりません。」この酔っ払いと乗務員は、まるで私とイエス様の関係を写し出しているかのようです。酔っ払いは自分本位に考え、好き勝手にしようとする。一方、乗務員は、どんな乗客でもあくまで客として相手をし、いつも態度を変えることはありません。たとえ酔っ払いが「『停まりません』ってエチオピアまで行くんかい?」とつつこんでも、その人といつまでも対話する関係が続けようとし、イエス様とはそんなお方のように思えるのです。

(商学部助教授・宗教活動委員会委員長)